

事務事業評価シート

(平成 24 年度実施事業)

事務事業名	もりおか雪あかり開催事業			事業コード	1567
所属コード	132000	課等名	商工観光部観光課	係名	
課長名	吉田 春彦	担当者名	阿部 大志	内線番号	3725
評価分類	<input checked="" type="checkbox"/> 一般 <input type="checkbox"/> 公の施設 <input type="checkbox"/> 大規模公共事業 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 内部管理				

1 事務事業の基本情報・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 概要

総合計画 体系	施策の柱	活力ある産業の振興	コード	5
	施策	地域資源をいかした観光・物産の振興	コード	4
	基本事業	観光交流の推進	コード	2
予算費目名	一般会計 7 款 1 項 3 目 まつり・イベント振興事業 (004-01)			
特記事項				
事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度 <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度	開始年度	平成 14 年度	
根拠法令等				

(2) 事務事業の概要

もりおか雪あかりを実施し、冬季の盛岡への観光客誘致と観光交流人口の拡大を図る。

(3) この事務事業を開始したきっかけ（いつ頃どんな経緯で開始されたのか）

東北新幹線の八戸延伸と「壬生義士伝」がテレビドラマ化、映画化されたことを機に、盛岡への観光客誘致を図るため、平成 14 年度に事業を開始し、市民から盛岡に冬のイベントをとの声を受けて、市民参加の「もりおか雪あかり」を平成 16 年度から実施している。

(4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

イベント参加者や雪あかりの設置数が増加し、イベントの規模拡大が図られている。一方、近年は地球温暖化による雪不足の影響を受けることも多く、内容の検討が必要となっている。

2 事務事業の実施状況 (Do)

(1) 対象 (誰が, 何が対象か)

盛岡市民, 観光客

(2) 対象指標 (対象の大きさを示す指標)

指標項目	単位	22年度 実績	23年度 実績	24年度 計画	24年度 実績	26年度 見込み
A 観光客入込数	万人	444	466	478	471	490
B 来場者数	千人	45	79	79	84	80
C 参加団体数	団体	50	50	50	50	50

(3) 24年度に実施した主な活動・手順

負担金の支出
 実行委員会への参加
 ポスター・チラシ作成
 ボランティア募集
 資材借上げ, 購入等
 雪像製作, 雪あかり製作・設置
 会場製作, 運営, 撤収

(4) 活動指標 (事務事業の活動量を示す指標)

指標項目	単位	22年度 実績	23年度 実績	24年度 計画	24年度 実績	26年度 目標値
A 雪あかり製作数	個	46,168	39,428	39,000	37,627	50,000
B 参加ボランティア数	人	800	850	850	550	900
C 会場数	箇所	9	11	11	11	11

(5) 意図 (対象をどのように変えるのか)

県内外からの観光入込客の増, 交流人口の増

(6) 成果指標（意図の達成度を示す指標）

指標項目	性格	単位	22年度実績	23年度実績	24年度計画	24年度実績	26年度目標値
A 観光客入込数	■上げる □下げる □維持	万人	444	466	478	471	490
B 来場者数	■上げる □下げる □維持	千人	45	79	79	84	80
C 参加ボランティア数	■上げる □下げる □維持	人	800	850	850	550	900

(7) 事業費

項目	財源内訳	単位	22年度実績	23年度実績	24年度計画	24年度実績
事業費	①国	千円	0	0	0	0
	②県	千円	0	0	0	0
	③地方債	千円	0	0	0	0
	④一般財源	千円	500	1,000	4,000	4,000
	⑤その他()	千円	0	0	0	0
	A 小計 ①～⑤	千円	500	1,000	4,000	4,000
人件費	⑥延べ業務時間数	時間	160	150	150	150
	B 職員人件費 ⑥×4,000円	千円	640	600	600	600
計	トータルコスト A+B	千円	1,140	1,600	4,600	4,600
備考						

3 事務事業の評価 (See)

(1) 必要性評価（評価分類が「内部管理」の事務事業は記入不要）

① 施策体系との整合性

観光客誘致により，観光関連産業の振興及び雇用の創出に結びついている。

② 市の関与の妥当性

市のイメージアップ及び観光客誘致促進を図るため，関与は妥当と考える。

③ 対象の妥当性

新幹線を活用した首都圏等からの観光客の入込を対象とすることが妥当と考える。

④ 廃止・休止の影響

観光客誘致に貢献している事業であり、冬季観光客入込数が減少する。

(2) 有効性評価（成果の向上余地）

他の企画やイベントなどとの実施も併せて継続していくことが効果的である。

(3) 公平性評価（評価分類が「内部管理」の事務事業は記入不要）

市民・観光客の豊かな生活に寄与するものとしての受益機会は、公平・公正であり適正である。

(4) 効率性評価

人員面については、現状必要最小限の人員で事業を実施している。

事業費については、企業協賛金の増加を図ることにより削減の可能性はあるが、現下の経済情勢は厳しい状況にあることから、当面は現状維持とならざるを得ない。

4 事務事業の改革案 (Plan)

(1) 改革改善の方向性

イベント規模の拡大

(2) 改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

景気低迷による各団体からの協賛金の確保

5 課長意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 今後の方向性

- 現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）
- 改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）
- 終了・廃止・休止

(2) 全体総括・今後の改革改善の内容

市民ボランティアによる雪あかりの制作など市民参加のイベントとして実施されており、盛岡の冬の風物詩として定着させるため、参加規模の一層の拡大を図る必要がある。また、冬季の観光振興を目的に開始されたイベントであり、夜型観光イベントとして宿泊や飲食に結びつくような仕組みの構築とともに、冬の観光メニューと組み合わせたPR活動や情報発信により、イベントの一層の魅力向上を図る必要がある。